

第14回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和4年11月15日（火曜）		9時30分 開会	
	休 憩 9:39-40 10:40-55 11:05-07 11:57-58			
	12時05分 閉会			
	休憩時間：0時間19分		会議時間：2時間16分	
会議場所	3階委員会室			
出席委員 氏 名	委員長	渡辺洋一郎	委員	堀切 忠
	副委員長	黒田 栄継		
	委員	常通 直人		
	委員	柴田 正博		
	委員	正村紀美子		
説 明 員	健康福祉課長	大野 邦彦	社会教育係長	村島志津佳
	保健推進係長	吉川 泰子	スポーツ振興係長	梅森 祐之
	保健推進係主査	竹内 名恵	子育て支援課長	佐々木雅之
	保健推進係主査	中元 麻実	児童係長	山田 陽子
	教育推進課長	有澤 勝昭	公立芽室病院事務長	西科 純
	課長補佐	清末 有 二	参事	江崎 健一
	給食センター長	森 真由美	副総看護師長	三上真紀子
	教育総務係長	金須 智秋	総務係長	佐藤 文彦
	教育推進係長	橋本 岳	医事係長	多田 敬介
	生涯学習課長	日下 勝祐	経営企画係長	杉本 康次
	図書館長	藤澤 英樹		
参 考 人				
欠 席 委 員 氏 名	委員	西尾 一則		
	委員	橋本 和仁		
事務局職員	事務局長	安田 敦史	総務係主査	上田瑞紀
『会議に付した事件と会議結果など』				
1 開 会				
委員長が開会を告げ、西尾委員及び橋本委員の欠席を報告し、事務局から本日の委員会の日程を説明する。				
2 議 件				
(1) 調査事項				
ア 新型コロナウイルスワクチン接種状況等について 当日資料1				
・健康福祉課長：資料説明＜第12回厚生文教常任委員会（10月7日）以降の確定及び変更点について説明。主に、オミクロン株対応ワクチン接種、従来株接種（3回目・4回目）、小児・乳幼児接種、初回接種（1回目・2回目）、接種体制、接種				

状況（11月14日現在）＞

- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・黒田委員：予約がとりにくいとの声聞くが、1日の受付人数が限定されているなどの実態把握はいかがか？
- ・課長：いくつかのケースが考えられる。接種間隔が短縮されたことによる混雑、インフルエンザワクチン接種が並行している時期であること、医療機関単位で接種可能回数の限定等が要因と考えられる。
- ・黒田委員：休日や夜間接種の周知方法は？
- ・課長：医療機関との調整状況が前提となるが、町の広報手段（広報誌、ホームページ等）をはじめ、接種券発送の際に「お知らせ」を同封するなど策を講じていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：調査事項「ア」を終了する。

イ 第2期芽室町教育振興基本計画（案）策定について 資料2

- ・教育推進課長：計画の概要説明。資料は担当係長から説明の旨を告げる。
- ・教育総務係長：資料説明（スケジュール、計画の位置付け）
- ・教育推進係長：資料説明（施策目標1「自ら未来を拓く力を育む教育の推進」、施策目標2「多様な学びと質の高い教育を保障する環境の確立」、施策目標3「持続可能な地域づくりを支える教育の推進」）
- ・生涯学習課長：生涯学習課所管を担当係長から説明する旨を告げる。
- ・社会教育係長：資料説明（施策目標3「持続可能な地域づくりを支える教育の推進」）
- ・図書館長：資料説明（施策目標3「持続可能な地域づくりを支える教育の推進」）
- ・スポーツ振興係長：資料説明（施策目標3「持続可能な地域づくりを支える教育の推進」）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・常通委員：「小中一貫教育を推進する」とあるが、建物一体等、そのイメージは？
- ・教育推進課長：教育委員会の事務レベルとして、現時点では、小中一貫（併設型）の建物分離をイメージしている。令和5年度には「指針」を定めていきたい。
- ・常通委員：その協議を進めていく上での拠り所は、この計画となるのか？
- ・教育推進課長：お見込みの通りである。
- ・黒田委員：全国体力・運動能力、運動習慣等調査においては、成果指標の設定もあるが、この目標到達に向けた手段としては、社会体育施設の整備もそのひとつと考えられるのか？
- ・生涯学習課長：現在、その考え方はない。
- ・黒田委員：計画実現に向けての方策として、ハード整備のつながりを意識していくことも、今後の教育行政の推進には必要ではないか？配置計画への影響はいかが

か？

- 教育推進課長：30人学級の編成にあっては、令和10年度を目標にしている。現行計画は令和8年度までとなっているので、この計画はそのベースとなるものである。
- 正村委員：特別支援学級の在籍が増加していることと、30人以下学級との関係を今後どのように整合させようとするのか？計画での位置付けを伺う。
- 教育推進課長：30人以下学級の実現に向けた教室数の確保については、芽室小学校及び芽室中学校では令和8年度までは達成できる見込みである。インクルーシブ教育の理念として、特別支援学級を普通学級として機能させていきたい。現状は、特別支援学級の増加となっているが、特別支援学級自体のあり方を精査していくことを並行して取り組んでいきたい。
- 正村委員：構想は理解するものの、特別支援学級在籍の保護者への対応について、どのように取り進めるのか？
- 教育推進課長補佐：特別支援学級への在籍決定については、就学支援委員会で決定する手続きとなる。この手順として、保護者及び所属の担任（幼保・小・中）が関与するしくみ（1枚のシートに総括する資料）を構築したので、この手段を機能させて情報共有を図っていきたい。
- 正村委員：発祥の地ゲートボールの普及振興について、「発祥の地・全国大会（以下、「大会」という。）」のあり方の見直しについては、どのように計画していくのか？
- 生涯学習課長：競技人口が激減している状況下において、対策に苦慮している。現役プレイヤーの継続機能と、新規若手プレイヤーの育成を並行して取り組んでいきたい。唯一無二の発祥の地の財産である「競技」の火を消さぬように真摯に取り組んでいきたい。
- 正村委員：改めて伺う。大会のあり方についての今後の計画は？
- 生涯学習課長：若い世代との交流を企画したところだが、今回は実現しなかった。ゲートボール協会、推進協議会と町の三者で継続してさらなる検討・研究を進めていきたい。
- 常通委員：部活動の地域移行について、学校現場での主たる課題をどのように捉えているのか？生徒の視点から見た地域移行について、計画に記載はあるのか？
- 教育推進課長：計画では教職員の視点のみの記載である。
- 常通委員：生徒の視点からの記載について、必要でないか？
- 教育推進課長：部活動については、学校教育と社会教育の両面の要素がある。来年度に向けて、生徒の視点を把握する目的でアンケート等も検討していきたい。
- 常通委員：子どもたちの視点はとても重要である。改めて計画への反映について見解を伺う。
- 教育推進課長：計画への反映については、今後、検討していきたい。
- 柴田委員：出生数の減少、それに伴う町内全体の児童・生徒数の減少が現実である。今年生まれた数は把握でき、6年後までは見通せるとしても、それ以降の動きは見通せないかもしれないが、ある程度の将来に向けた芽室町の教育スタイルを

想定しながら、当該計画を策定していく手法を期待したいという意見を申し上げます。また、質疑としては、支援を必要とする児童・生徒に対して、支援員の存在があれば、普通学級に在籍できる後ろ盾になる実感がある。それぞれの児童生徒に対する具体的な支援を明確にできるような流れを保護者は求めている。支援員へのスキルアップについて、町（教育委員会）としてどのように展望していくのか伺う。

- ・教育推進課長：北海道の加配の制度も活用しながら、特別支援教育に臨んでいるが、十分とは言い切れない。そのため、外部の教育支援も受けながら充実させていきたい。今回の計画に具体的な記載はないが、日常の学校教育の中で実践に努めていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「イ」を終了する。

ウ 病児保育の実施について 資料3

- ・子育て支援課長：事業概要説明。資料は担当係長から説明の旨を告げる。
- ・児童係長：資料説明（経緯、現状、今後のスケジュール）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・常通委員：町民からの病児保育利用助成の実績は？
- ・子育て支援課長：今年度の申請はない。
- ・常通委員：当該事業に係る具体的な予算補正の根拠は？
- ・子育て支援課長：昨年度3月に実績は1件。これを踏まえて必要最小限の追加補正予算を想定している。
- ・堀切委員：そもそも論になるが、この間、他の事業者と接点はなかったのか？
- ・子育て支援課長：町内で当該事業を実施できる候補は、当該事業者しか存在しないという認識である。
- ・柴田委員：芽室町としては、今後、病児保育を設置していきたいという意思はあると捉えて良いか。
- ・子育て支援課長：町内で整備していくことに変わりない。
- ・正村委員：候補事業者については、当面開設できないとあるが、町からの支援はあるのか？
- ・子育て支援課長：随時、当該事業者と情報交換等やりとりしている。今後、新たな施設での展開が想定されることから、その際には町からの支援はあり得る。
- ・正村委員：令和5年中に事業が開始できるスケジュールか？
- ・子育て支援課長：令和5年度中に移転できると聞いている。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ウ」を終了する。

エ 公立芽室病院の経営状況（令和4年度上半期決算状況）について 資料4

- ・事務長：上半期の経営概要説明。資料は担当係長等から説明する旨を告げる。
- ・総務係長：「上半期決算状況」及び「新型コロナウイルス感染症に係る補助金」の説明
- ・医事係長：「診療科別前年対比（入院・外来）」及び「新型コロナ PCR 算定件数一覧（外来）」説明
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・柴田委員：病院改革をはじめ、さらには、コロナ対応にも積極的にあたっているが、医師・看護師等職員の勤務状況について、どのような実態であると分析しているのか？
- ・事務長：スタッフの健康状況は、出勤・退勤時の体温チェック他7項目の実態把握を日常化している。また、サービス残業は皆無である。また、病院改革の共通認識にあたっては、月1度の全部門ミーティングを恒常化させている。21名のリーダーが一堂に会し、議論できるステージがあり、いっそうこのしくみを定着させていきたい。
- ・常通委員：コロナ対応として、協力医療機関から重点医療機関に変更する意義は？
- ・事務長：医療的な背景もあり、複雑なものがある。協力医療機関は制度がなくなる流れのようではあるが、北海道と国とのやり取りもまだ確定していないので、近日中に北海道に出向き、詳細を詰めていきたいと考えている。
- ・常通委員：職員の業務負担との兼ね合いも危惧するところである。その意識はいかがか？
- ・事務長：職員自体の感染、もしくは職員家族からの感染等による職員数の一時的な減、また、病棟相互の支援体制の機能など、職場の繁忙は様々な要因が重なる事象と認識している。院内及び職員の機能が双方ともに停滞せず、並行して維持していくことを常に重視していきたい。
- ・正村委員：今後の病院経営の安定維持については、どのように取り組まれるのか？
- ・事務長：院内の職員のモチベーション維持及び向上が最重要と考えているので、病院の稼働と職員の疲労度のバランスを緻密に分析しながら経営にあたっていきたい。決定打はなく、都度、模索しつつも柔軟に対応していきたい。
- ・正村委員：導入した新たな医療機器活用の実態は？
- ・事務長：コロナ交付金を活用しながら、本来、必要としていた機器導入を実現した実績もある。今後に向けては、交付金に委ねるにも限界があることから、重点医療機関に指定されるか否かによって、新たに構想を練っていきたい。
- ・柴田委員：改革の一端として、夜勤・日勤のユニフォームの差別化や、交代時の過剰な時間（健康チェック）を要しないような工夫は施されているのか？
- ・事務長：改革の重点は、職員目線でのアイデア採用と認識している。いっそうの工夫に努めていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「エ」を終了する。

オ 訪問看護ステーション実績について 資料5

- ・副総看護師長：資料説明（実績評価～利用者数、訪問件数、24時間対応概要、訪問リハビリ、その他の活動内容）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「オ」を終了する。

- ・委員長：お諮りする。論点整理のための議員間討議を行う。調査事項「ア」について、自由討議はあるか？
- ・（なし）
- ・委員長：継続調査事項とする。

- ・委員長：調査事項「イ」について、いかがか？
- ・常通委員：パブリックコメント後に、改めて調査すべき事案と考える。
- ・柴田委員：同じ意見である。
- ・委員長：継続調査事項とする。

- ・委員長：調査事項「ウ」について、自由討議はあるか？
- ・黒田委員：新たな具体的な動きが確認できた時点で改めて調査することとしたい。
- ・委員長：進捗状況を確認し、継続調査事項とする。

- ・委員長：調査事項「エ」「オ」について、自由討議はあるか？
- ・正村委員：訪問看護ステーションは重要な事業である。経営状況の報告に合わせて調査すべきと考える。
- ・柴田委員：同じ意見である。
- ・委員長：引き続き定期的な継続調査事項とする。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について
正副一任とする。

(2) その他

- ・委員長：各委員からないか？
- ・（なし）
- ・委員長；議長からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：事務局からないか？
- ・（なし）

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年11月15日

厚生文教常任委員会委員長 渡辺 洋一郎

議長	副議長	局長	係長	主査	作成者氏名 安田 敦史